

保護者・地域の皆様へ

学校評価・学校関係者評価の公表について

すでに実施しております「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果・分析を資料として、来年度に向けての具体的な取組や改善策を検討するとともに、その内容を「学校評議員」の方にご覧いただき、学校が自分たちの教育活動を正しく評価し、適切な改善を行おうとしているかについて、さまざまなご意見をうかがいました。

今回は、それを「学校評価・学校関係者評価」として集約したものを、保護者の皆様には配布の上、ホームページにて公表いたします。

来年度へ向けて、浮き彫りになっている課題について、具体的な改善の取組を始めますが、保護者・地域の皆様におかれましては、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

平成31年3月1日

赤穂市立赤穂中学校

校長 平 井 正 彦

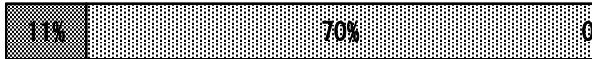
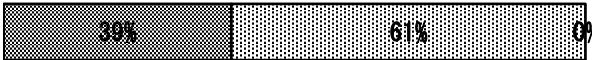
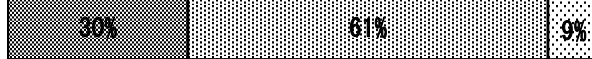
平成30年度 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針 ・ 重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
『すべての生徒が安心して 学習できる学校づくり』 □教師、生徒、保護者、地域が一体となった学校づくり □赤穂中学校の「誇りと信頼」の再構築	校訓 『 明けく・ 淨く・ 直く 』 【明けく】 公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒 【淨 く】 心や行いがきれいで正しく、やましいところがない生徒 【直 く】 正しく堂々とした生活をし、素直で誠実な生徒	I 人権感覚を磨き、感性を高め、人と命を大切にする教師 II わかる授業と学力向上への工夫と改善に努める教師 III 生徒の気持ちに寄り添い、支え伸ばす教師 IV 生徒の主体性と可能性に期待し、信じる教師 V 厳しさと愛情を持って生徒に関わる教師 VI 挑戦と振り返りにより自分を鍛え、成長する教師

2 自己評価結果(A～D) A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

◆学習指導										分 析 と 改 善 の 方 策									
【本年度の学校努力目標】 ○学習習慣の確立と学力向上を図るため、「わかる授業づくり」への工夫と改善に努め、授業公開や研究協議などの確実な積み上げと合わせて、学習規律の定着を図るとともに、形式にとられないメリハリのある授業展開や学習形態などの研究を進める。										◆学習指導									
										＜成 果＞									
										・電子黒板、電子書籍、タブレットの導入やPCを使用した授業など、ITを活用した授業が積極的に実施されたことから、教師自身の授業改革が進み、生徒や保護者の意識にも、分かりやすい、授業が楽しいという評価になった。									
										・主体的で対話的な深い学びの授業が進み、問題解決学習や表現学習の授業を取り入れ、生徒の授業への取組が積極的になり、到達度の低い生徒の授業への意識も向上した。									
										・校内での研究授業や市、西播、県の研究授業を積極的に実施し、あらゆる視点からの指導やアドバイスを受け、新指導要領に向けた取組が進んだ。									
										＜課 題＞									
										・到達度の低い生徒に焦点を当てた授業を中心に行うことで、到達度の高い生徒への対応ができず、授業中の時間を余す生徒や、無駄な時間が発生している生徒がいた。									
										・若手教員が多くなったこともあり、授業中に教師自身に余裕がないため、褒めたりうなずいたり、認めたりするような授業展開に発展していない。									
										・決まった研究授業や固定された公開授業などへは参加するが、自分の時間や空き時間が少ないため、積極的・主体的な授業参観や授業検討会を実施するまでには至らなかった。									
										＜改善の方策＞									
										・個に応じた指導方法や教材、学習形態(教え合う、生徒が授業する)などを工夫する必要がある。									
										・若手教員の授業力向上に向けた校内組織を確立し、ベテラン教員と中堅教員が責任を持って指導・実践する機会を増やす。									
										・校内研究授業の定例化や時間割の工夫による授業参観バージョンの時間割を作成し、ベテラン教師の授業公開や若手教員同士の授業公開を行い、相互の授業研究を推進する。									
										・業務改善や勤務時間の適正化、ノー部活デーをより進めることで、余裕を持った教材研究や授業研究、さらには、ライフワークバランスをとることで、はつらつとしたメリハリのある授業展開の実践につなげていく必要がある。									
										・再来年度、新学習指導要領完全実施に向け、全国学力学習状況調査からの課題である、言語活動や表現活動の力を身につけさせるための研究を、各教科や学年で推進していかなければならない。									
										・授業参観レポートや参観記録の提出など、ある程度の課題を求める必要がある。									
										・生徒からの先生への授業評価や各教科担任の授業アンケートを実施すべきである。									
NO	評 価 項 目				A	B	C	D		A	B	C	D						
1	各教科において、基礎・基本を明確にし、[指導内容や教材の精選・工夫を行っている。				8	15	0	0											
					35%	65%	0%	0%		35%	65%	0%	0%						
2	授業内容・指導方法・学習形態等の工夫や改善を行っている。(自ら学ぼうとする意欲・関心を高める／授業を活性化する／個に応じた対応をする等のために)				15	8	0	0											
					65%	35%	0%	0%		65%	35%	0%	0%						
3	思考力や表現力を高める、問題解決的な学習指導を行っている。				8	15	0	0											
					35%	65%	0%	0%		35%	65%	0%	0%						
4	授業で生徒の意見にしっかり「うなずき」，「認めたり褒めたり」できている。				3	16	4	0		13%	70%	17%	0%						
					13%	70%	17%	0%											
5	到達度の低い生徒への対処を課題と捉えて取り組んでいる。				6	15	2	0											
					26%	65%	9%	0%		26%	65%	9%	0%						
6	到達度の高い生徒に対する学習指導を，個に応じた視点で工夫している。				4	12	7	0											
					17%	52%	30%	0%		17%	52%	30%	0%						
7	信頼性のある，客観性の高い観点別評価づくりを行っている。				14	7	2	0											
					61%	30%	9%	0%		61%	30%	9%	0%						
8	新学習指導要領（新教育課程完全実施）の内容を理解し，授業を計画的に行っている。				5	17	1	0											
					22%	74%	4%	0%		22%	74%	4%	0%						
9	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。				4	7	12	0											
					17%	30%	52%	0%		17%	30%	52%	0%						
10	教員の間で，授業方法等について検討する機会を持っている。				3	8	12	0											
					13%	35%	52%	0%		13%	35%	52%	0%						

◆生徒指導						分 析 と 改 善 の 方 策					
【本年度の学校努力目標】 ○生徒が、学び合い、支え合い、共に成長する多様な教育活動を展開するとともに、日常的な活動を確実に積み上げることの大切さに気づかせ、自主・自立の精神を培う。 ○不登校などの課題を持つ生徒へのアプローチを進め、関係機関の協力を得ながら、改善を図る。また、スモールステップによる目標の達成感を積み上げ、学校復帰に向けて取り組む。						◆生徒指導 ＜成 果＞ ・大きないじめ事案発生を契機に、学校の最重要課題としての取組が組織的に行われ、早期発見、早期対応とともに、いじめの積極的な認知と絶対に許さないとの毅然とした指導体制が確立されてきた。 ・定期的なアンケートの実施や教育相談を実施し、生活ノートへの生徒と担任との密なる対話で、様々な問題や悩みをいち早く掌握でき、保護者と連携を取りながら対応することができた。 ・関係機関との連携ではSC、SSW、心の教室相談員、育成センター、市行政、子ども家庭センターなどに積極的に関わっていただき、教師・保護者・生徒への対応やアドバイスをしていただく機会が増加し、教師も保護者も、生徒も大きく改善することができた。 ＜課 題＞ ・からかい、ふざけ、遊び半分、冗談などで済まされていたこともいじめと認知し、指導や謝罪を繰り返しているが、加害生徒のいじめへの認知や保護者のいじめとしての認知の理解度の差が大きく、保護者同士や教師とのトラブルにも発展していった。 ・あいさつ、登下校マナー、遅刻、集会態度、清掃など、日常生活での基本的な礼儀作法やマナーと言葉遣いがなかなか改善されていない。家庭でも話をし指導している結果になっているが、生徒アンケートでは8割9割ができている回答になっているため、根本的な生活作法のレベルの差が生じている。 ＜改善の方策＞ ・いじめへの未然防止策として、生徒会中心の取組や生徒への啓発活動が必要である。 ・基本的な生活や礼儀作法、マナーなどを分かりやすく学習する機会を設け、生徒会活動や専門部での取り組みや、マナー教室、キャリア教育としての言葉遣い、遅刻、清掃の意義などを教えていく必要がある。 ・教師自らが、一生懸命掃除をする姿を見せる。 ・生徒会や学年委員会など、自治的活動を活発化させ、生徒の力で学校をつくりあげるべきである。 ・服装や髪型などの基準を明確にし、できるだけ統一した形で指導する。 ・褒める日、褒める週間などを決め、できるだけ褒める機会を増やす。 ・問題がなく、いつも名前があがってこない生徒への配慮や声かけを忘れないように心がける。 ・掃除やあいさつ、遅刻などできていないことがわかるようにグラフや表で表現し、見える化をする。 ・ある程度の距離感を保ちながら、昼休みやノー部活デーの放課後などを利用した生徒との人間関係づくりのためのレクリエーションや学習会などを行う。					
11	生徒一人一人の特性を多面的に把握し、体罰を排除した心のきずなを深める内面的理解に基づいた指導や支援をしている。	7	16	0	0		0%				
12	弱い立場の生徒や気になる生徒、問題行動を繰り返す生徒への声かけを根気よく行っている。	9	14	0	0		0%				
13	親しみと馴れ合いの区別を付け、一定の緊張感ある言葉のやり取りをしている。	11	11	1	0		0%				
14	生徒の問題行動（暴力防止及び早期対応）に対して組織的に対応できる体制が整っている。	9	14	0	0		0%				
15	家庭や地域、関係機関との連携を密にした指導ができている。	11	11	1	0		0%				
16	校務分掌間で連携して、清掃・挨拶・服装などの指導によく取り組んでいる。	7	14	2	0		0%				
17	生徒の基本的生活習慣は向上している。	4	13	5	1		0%				
	①授業の態度・意欲	7	14	2	0		0%				
	②あいさつ（登校時・下校時・授業前後等）	2	15	5	1		0%				
	③登下校のマナー	2	16	5	0		0%				
	④命を守るヘルメットの着用	11	12	0	0		0%				
	⑤遅刻	2	10	11	0		0%				
	⑥集会（学年・全校・行事練習）	4	14	4	0		0%				
	⑦清掃	0	12	10	1		0%				
	18	学級活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。	8	15	0	0		0%			
			35%	65%	0%	0%					

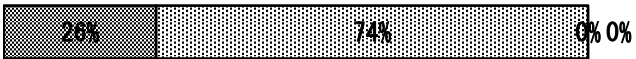
◆ 特別活動 ◆ 人権教育

【本年度の学校努力目標】

○生徒会を中心とする自主的活動や仲間づくりの活性化と適切な支援により、集団の自浄力を高め、学校の秩序と信頼の定着を図る。

○人権尊重の精神に基づき、生徒を大切にする立場で考え、実行し、すべての生徒が安心して学習や集団活動ができる学校環境（人・もの・心）をつくる。

19	互いの違いを認め合い、共に支え合う集団づくりを実践している。	6	17	0	0
		26%	74%	0%	0%
20	集団づくりで埋もれがちな個性や違いを大切にし、画一的でなく一人一人の違いを認める生徒観や指導観を持って実践している。	5	17	1	0
		22%	74%	4%	0%
21	魅力ある学校行事となるよう、工夫や改善を行っている。	6	17	0	0
		26%	74%	0%	0%
22	生徒が主体的に活動する生徒会活動となるよう、学校全体で支援している。	3	18	2	0
		13%	78%	9%	0%
23	J R C活動を推進する適切な指導や支援を通して、奉仕の精神を養いボランティア活動への意欲や態度を養っている。	5	13	5	0
		22%	57%	22%	0%
24	生徒が個々の能力に応じて達成感を得られるよう、部活動の活性化に努めている。	9	13	1	0
		39%	57%	4%	0%
25	教育活動全体を通して規範意識を高め、道徳性を涵養する指導や支援を行っている。	9	14	0	0
		39%	61%	0%	0%
26	教室環境、校内環境、校内掲示、学校園整備、校外環境の改善が図れている。	8	13	2	0
		35%	57%	9%	0%
27	「道徳の時間」を大切にし、よりよい授業づくりに努めたり、指導方法の工夫や改善を図っている。	7	14	2	0
		30%	61%	9%	0%
28	いじめは「決して許さない」の姿勢で毅然とした指導を行っている。	17	6	0	0
		74%	26%	0%	0%



◆ 特別支援教育の充実

【本年度の学校努力目標】

○特別支援教育の充実や個別の支援計画、指導計画の有効活用し、コミュニケーション能力の向上を図る。また、小中連携の教育拡充や道徳教育の教科化、キャリア形成、コミュニティスクールの推進など、新指導要領と今日的課題を見据えた取組の推進を図る。

29	「特別支援教育」（特別支援学級と通常学級内の“気になる子”）に対する積極的な理解を図っている。	12	11	0	0
		52%	48%	0%	0%
30	一人一人を大切にし、異なる個性を輝かせる仲間づくりに努めている。	9	14	0	0
		39%	61%	0%	0%
31	障がいをもつ人たちへの理解を深め、「共に生きる」社会を築く資質を養う指導に努めている。	6	14	3	0
		26%	61%	13%	0%
32	差別や偏見など、生徒たちに身の周りにある不合理や矛盾に気づく感性を養っている。	7	15	1	0
		30%	65%	4%	0%
33	支援を要する生徒たちの情報を幅広く交換し、生徒理解したり研修する校内の支援体制ができている。	10	11	2	0
		43%	48%	9%	0%
34	必要に応じて小学校や関係機関と連携し、生徒支援が効率的に進められるようにしている	4	14	5	0
		17%	61%	22%	0%



分 析 と 改 善 の 方 策

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

＜成 果＞

- ・様々な体験活動や講演会を実施し、命の大切さや命を守る行動、人を思いやる心が身につき、実際に心肺蘇生法を行い、人命救助を行った生徒も現れた。
- ・できるだけ保護者や地域の方々に参加していただく形の学校行事を計画し、様々な方とのふれあいや協働作業により、生徒達の心や視野に大きな広がりが見られた。
- ・来年度からの特別の教科道徳の教科化に向けての研究が進み、教師の授業力向上や評価に向けての取組が行われ、完全実施に向けた準備が進んでいった。
- ・いじめは絶対に許さない、という毅然とした指導体制をぶれずに確立し、その都度、丁寧に生徒達に語り続けている。
- ・ノ一部活デー完全実施や休日での部活休みを実施することで、生徒の身体的余裕や生徒との対話する時間が増えた。

＜課 題＞

- ・特別活動の時間数が増え、教科学習の時間数の確保が大きな課題となっている。特に5教科の時間数が現実的に厳しくなっている。
- ・大きな行事や活動も大切だが、毎日の朝の会や終わりの会、清掃活動をもっと重要視する取組を実施しなければならない。
- ・障害に対しての認識や身近な生活での交流が少なく、偏見や差別的な発言も多い。

＜改善の方策＞

- ・授業数確保に向けて、6時間日課を週4にしなければならない。
- ・支援学校や障害を持たれた方との交流や行事参加を実施する。
- ・特別活動の毎日の地道な取組の事例研究や実践例を研修し、1学期ぐらいの単位で取り組む。
- ・営繕など、できるだけ教師や子供たちの手で修理し、すぐに対応するようにする。
- ・学級活動や学級会での学級内で話し合いをする機会や学級レクなどを行う機会が必要である。
- ・落ち着いて普段の学校生活を過ごすために、行事の精選が必要である。

分 析 と 改 善 の 方 策

◆ 特別支援教育の充実

＜成 果＞

- ・通常学級における特別な支援を要する生徒への支援が、関係機関の相談や職員研修により、合理的配慮や細かな支援体制、通級指導を充実させることができた。
- ・個々の支援を充実させるために、指導計画や支援計画の推進が図られた。

＜課 題＞

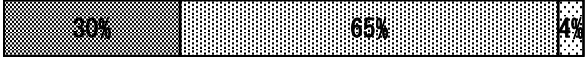
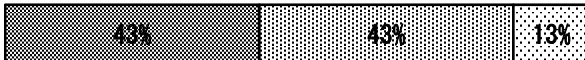
- ・ユニバーサルデザインの取組が推進されず、教室環境や授業板書などの工夫が徹底されていない。
- ・通常学級における支援を必要とする生徒への対応や支援について小学校との連携が不足し、効率的な支援がされていない。

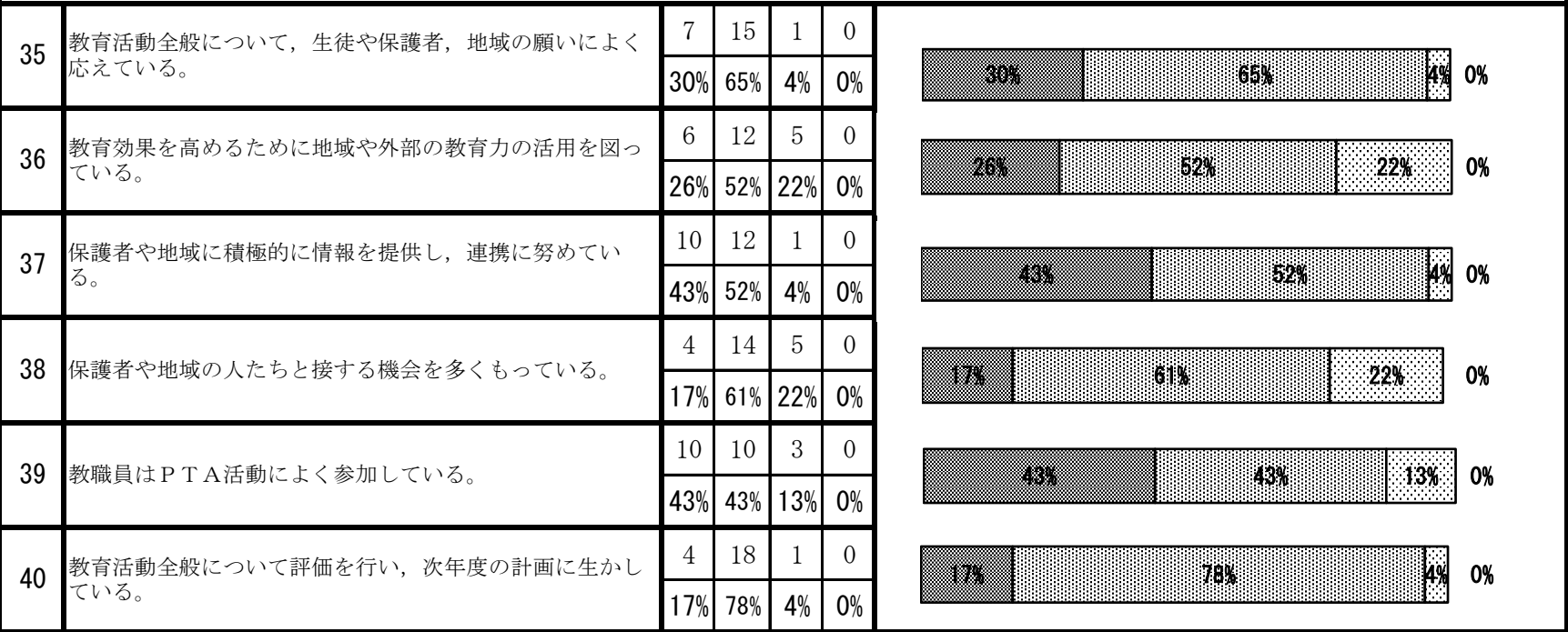
＜改善の方策＞

- ・教室環境の見本や板書例の研修を行い、全校的な取組を行う。
- ・生徒指導の問題だけでなく、支援の方法や、入学後気づいたことなどを小学校の担任と連携し、支援のあり方や、保護者対応も確認する機会を作る。
- ・小中連絡会を年内に複数回実施し、密に連携する。

◆ **学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進**

○福祉・ボランティア活動や地域への貢献活動を展開・充実させるとともに、わかりやすく見やすい紙面による学校情報の発信、地域団体との連携、オープンスクールの拡充、地域人材の活用などを通して、地域に開かれた学校、地域に根ざした学校教育を推進する。

35	教育活動全般について、生徒や保護者、地域の願いによく応えている。	7	15	1	0	
		30%	65%	4%	0%	
36	教育効果を高めるために地域や外部の教育力の活用を図っている。	6	12	5	0	
		26%	52%	22%	0%	
37	保護者や地域に積極的に情報を提供し、連携に努めている。	10	12	1	0	
		43%	52%	4%	0%	
38	保護者や地域の人たちと接する機会を多くもっている。	4	14	5	0	
		17%	61%	22%	0%	
39	教職員はPTA活動によく参加している。	10	10	3	0	
		43%	43%	13%	0%	
40	教育活動全般について評価を行い、次年度の計画に生かしている。	4	18	1	0	
		17%	78%	4%	0%	



分 析 と 改 善 の 方 策

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進

＜成 果＞

- ・地域行事への参加やボランティアが活発に行われ、地域からの感謝や返事などを生徒達に返すことで、さらに喜びの活動へと広まった。
- ・学級通信や学校だより、ホームページの改訂や更新、オープンスクールの複数回実施により、保護者だけでなく、地域の方が学校に来る機会が増え、また、キャリア教育や防災・福祉・命の教育など地域の人材活用を積極的に行うことができた。
- ・学校からのメール配信で、細かな連絡や情報発信することができた。

＜課 題＞

- ・地域行事やボランティア活動は土日開催となるため、教師の勤務の問題と業務改善の課題が生じている。
- ・地域人材の活用を実施しているが、大きな講演会や行事となるため、身近なものとしての認識が余りない。

＜改善の方策＞

- ・ご近所の方や先輩に、クラス単位で授業をしてもらうなど、関係も距離も近い状況での活用が必要である。

- ・地域行事への参加やボランティアが活発に行われ、地域からの感謝や返事などを生徒達に返すことで、さらに喜びの活動へと広まった。
- ・学級通信や学校だより、ホームページの改訂や更新、オープンスクールの複数回実施により、保護者だけでなく、地域の方が学校に来る機会が増え、また、キャリア教育や防災・福祉・命の教育など地域の人材活用を積極的に行うことができた。
- ・学校からのメール配信で、細かな連絡や情報発信することができた。

- ・地域行事やボランティア活動は土日開催となるため、教師の勤務の問題と業務改善の課題が生じている。
- ・地域人材の活用を実施しているが、大きな講演会や行事となるため、身近なものとしての認識が余りない。

・ご近所の方や先輩に、クラス単位で授業をしてもらうなど、関係も距離も近い状況での活用が必要である。

分 析 と 改 善 の 方 策

◆ 学校・教職員

◆ 教職員の資質向上と人権意識向上の推進

＜成 果＞

- ・職員会議の資料を前もって配布し、会議を1時間30分を超えないように努めたことで、大きな業務改善を行うことができた。
- ・小さなことでも報告や相談がなされ、学年間を超えて情報共有することができた。また電子データなどで生徒の様子やそれぞれの校務分掌の情報も共有することができている。

＜課 題＞

- ・いじめや災害への対応は徹底されているが、学校内での事故やケガ、個々に関わる病気に対する対応の危機管理意識が十分でなく、全職員が緊急事態に対しての対応や対策がまだまだ徹底されていない。
- ・個人としての取組や研修が進む中で、研究推進としての組織的で計画的な取組実践が課題である。

＜改善の方策＞

- ・生徒の持病の把握と緊急事態の生徒も巻き込んだ研修やアレルギーやインフルエンザ対策の徹底、部活動指導のあり方の再確認を行う。
- ・教師同士での注意や指導も別室で行ったり、分かりやすく短時間で行うなどの工夫が必要である。

- ・職員会議の資料を前もって配布し、会議を1時間30分を超えないように努めたことで、大きな業務改善を行うことができた。
- ・小さなことでも報告や相談がなされ、学年間を超えて情報共有することができた。また電子データなどで生徒の様子やそれぞれの校務分掌の情報も共有することができている。

- ・いじめや災害への対応は徹底されているが、学校内での事故やケガ、個々に関わる病気に対する対応の危機管理意識が十分でなく、全職員が緊急事態に対しての対応や対策がまだまだ徹底されていない。
- ・個人としての取組や研修が進む中で、研究推進としての組織的で計画的な取組実践が課題である。

- ・生徒の持病の把握と緊急事態の生徒も巻き込んだ研修やアレルギーやインフルエンザ対策の徹底、部活動指導のあり方の再確認を行う。
- ・教師同士での注意や指導も別室で行ったり、分かりやすく短時間で行うなどの工夫が必要である。

項目	回答数	有効回答数	有効回答率	回答内容
41 「授業が最大の生徒指導である」の視点に立ち、授業研究や校内研修への意識を高く保ち、実践への機運が高まっている。	7	15	1	0
	30%	65%	4%	0%
42 各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	5	15	3	0
	22%	65%	13%	0%
43 職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討・解決の場として有効に機能している。	14	9	0	0
	61%	39%	0%	0%
44 教職員間の相互理解が十分になされ、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」が十分にできている。	9	14	0	0
	39%	61%	0%	0%
45 教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	11	11	1	0
	48%	48%	4%	0%
46 様々な事に対する危機意識が高く保たれている。	6	15	2	0
	26%	65%	9%	0%
47 課題解決のための校内研修組織が機能し、学校課題に対する研修や取り組みが進んでいる。	6	15	2	0
	26%	65%	9%	0%

42	各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	5	15	3	0	
		22%	65%	13%	0%	

43	職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討・解決の場として有効に機能している。	14	9	0	0	
		61%	39%	0%	0%	

44	教職員間の相互理解が十分になされ、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」が十分にできている。	9	14	0	0	
		39%	61%	0%	0%	

45	教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	11	11	1	0
		48%	48%	4%	0%

項目	割合
教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	48%
	48%
	4%
	0%

46	様々な事に対する危機意識が高く保たれている。	6	15	2	0
		26%	65%	9%	0%

Category	Percentage
Category 1	26%
Category 2	65%
Category 3	9%
Category 4	0%

47	課題解決のための校内研修組織が機能し、学校課題に対する研修や取り組みが進んでいる。	6	15	2	0	
		26%	65%	9%	0%	

学校関係者による総合評価

A 自己評価の結果について

- ・概ね達成感はあるように思います。授業改善が悩まれるところですが、習熟度を確認し、基礎的な内容がおざなりにならない上に、子供たちに何がためになるのかを追求した授業を研究していただきたい。
- ・教員一人一人が悩むのではなく、チームとして話しやすく、職員全体で共有し、研究していく環境作りをお願いします。
- ・自己評価が低かった項目が、失敗を恐れず、改善されてきたことが分かります。素晴らしいと思います。
- ・会議や研修で話し合われる場合は、有効に機能しているのに対して、個人でのコミュニケーションや相談、生徒との対話などが増えていないように思われます。
- ・教科授業も大切ですが、基本的な生活の指導が難しいようです。社会に出たときに最も大切なこととして、頑張っていたいただきたいと思います。

B 分析と改善策について

- ・あいさつや掃除など、基本的な生活への指導は、やはり一生懸命やってみせることが大切です。保護者も含めてまず見本を見せていきたいと思います。
- ・家庭教育の未熟な時代、毎日の指導の中で、礼儀やマナーを教えていくしかありません。教師の仕事ではありませんが、そういう時代です。特にコミュニケーションの取り方を教えることは大きな課題です。
- ・「うなずき・褒める・認める」ことに取り組んだことは素晴らしいと思います。家庭でも一番難しいことですが、生徒指導の極意です。もっとほめてもいいのだと思います。
- ・特別な生徒だけでなく一人一人に目を向けて取り組んでくれています。
- ・生徒から先生への評価を実施することは大切なことだと思います。それが授業改善や生徒の思いを受け止める結果になると思います。
- ・検討が必要だと思いますが、髪型や運動靴の統一は必要なのでしょうか、特に運動靴は自由でいいのではないのでしょうか？
- ・生徒が授業が楽しかった、おもしろかったと思うことを保護者に報告する機会や伝えることができればと思います。
- ・生徒同士で教え合う授業形態が理想です。
- ・体験活動や講演会などたくさん取り入れていただき、子どもと話す機会も増え、喜んでいます。
- ・社会的な問題にもなっていますが、やはり先生方に余裕がないように思われます。そのことが生徒に影響しないよう、業務改善、特に部活動の見直しを推進していくべきです。

C 課題と提言について

- ・全てのことが当たり前だと思って生活しているが、「そうでないこと」や「感謝の心」、「夢」を語ってほしいと思います。そのためには先生方にもう少し安らぎを感じる時間を与えなければならないと思います。部活動見直しではノー部活デー、土日休日など工夫して先生方に時間の余裕やワークライフバランスでの勤務を実践してほしいです。先生の笑顔が生徒の笑顔、親の笑顔につながります。
- ・研修への時間が多く費やされているようです。職員の年代によっての捉え方や感覚の違いを考え、研修の持ち方を工夫してみてもどうでしょうか・基本的な生活・礼儀・マナーがなぜ必要なのかをキャリアを通して教えていくべきです。
- ・先生同士も褒め合ってください。特に若い先生は褒めて育てる。保護者もその姿勢ができればと思います。
- ・今の教育は、生徒全員を聖人に育てようとしている様に思える。できないこともあるが、教師も自信を持ってダメなものはダメ、保護者に対してもおかしいことはおかしいと言える教師であって下さい。
- ・業務が大変だと思いますが、放課後の補習や勉強会などを行うことはできないのでしょうか。
- ・地域の学校として関わらせていただいている一人として、今後とも協力は惜しみません。1つのチームとして頑張っていたいただきたいと思います。